

(目的)

第43回大会において、二次元イメージ拡散法の有効性と活用方法について発表した¹⁾。そこで、本稿では、「着方」についての学習が5年生にまとめられたことに注目して、「被服の働きが分かり、目的に応じて日常着を着ることができるようにする」ため、被服の働きと被服の着脱を、より関連付けて指導する方法として二次元イメージ拡散法を利用した授業を行い、小学校で活用するための条件やその有効性を示すことを目的とする。

(方法)

小学校5年生の教材「健康と衣服」において、二次元イメージ拡散法を利用した授業を行い、それを分析する。

(結果)

授業実践の結果、次のことが示唆された。

- ① 用いるラベルは教師が与え不足分を生徒が追加し、2つの座標軸は事実とする
- ② シンプルな手法であるため、5年生でも作成に時間がかからない
- ③ 無意識に行った行動をマッピングすることによって具体的な自己行動が意識される
- ④ マッピングのプロセスで個々の思考が大切にされ、判断・評価なども同時に行われる
- ⑤ 学習したことを容易に実践に移すことができる

* 赤崎：二次元イメージ拡散法を用いた自己イメージ形成の試み～家庭科における授業「生活行動と生活時間」から～ 日本家政学会第43回大会(1991)